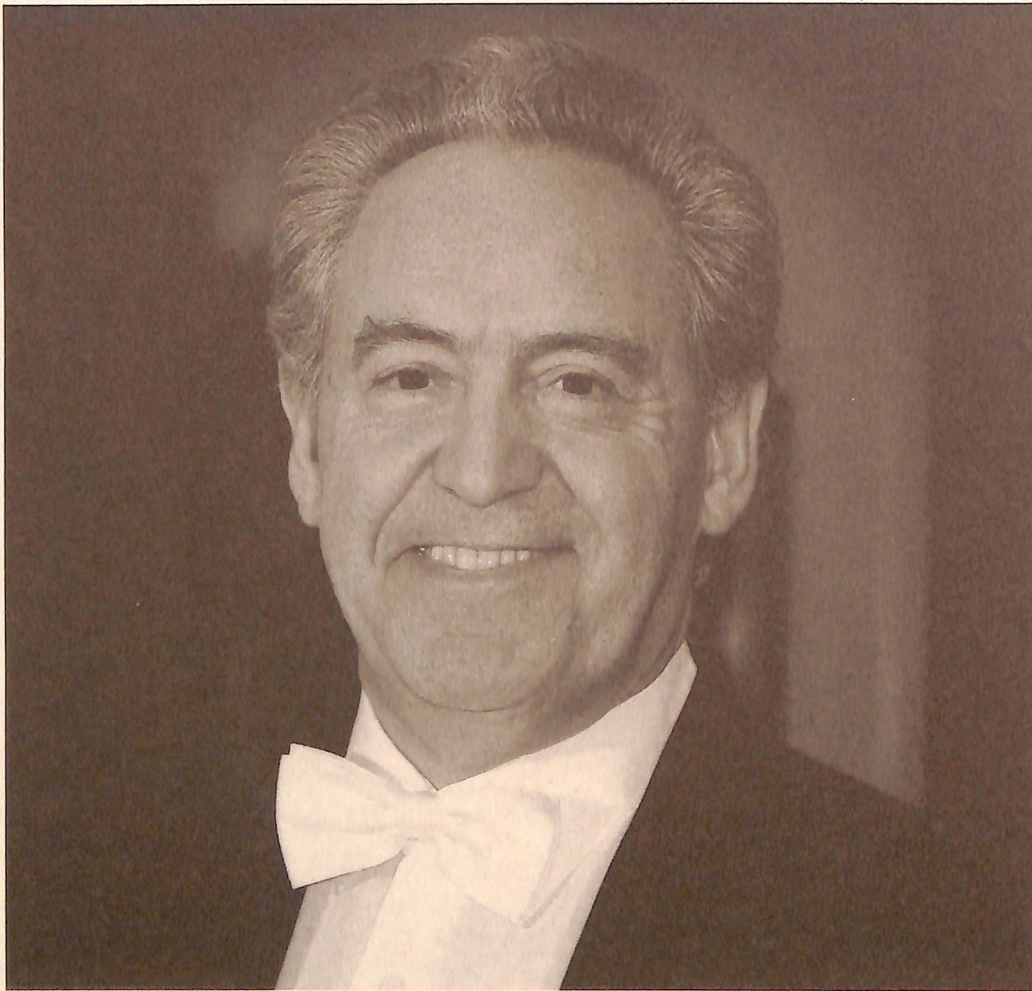


# FELIX AYO



フェリックス・アーヨ

2003年 日本公演



## フェリックス・アーヨ

### プロフィール

スペインに生まれる。14歳の時に、優秀な成績で学位を取得し、更に、パリ、シエナ、ローマで研鑽を積んだ。18歳の時、有名な“イ・ムジチ”の創設メンバーとなり、リーダーとソリストを16年間務め、絶賛された。1970年に、ローマ・ベートーヴェン四重奏団を結成し、これは今日、最も優れたピアノ四重奏団の一つと見なされている。これまでに世界中の名高い数々のコンサートホールで演奏した。(カーネギー・ホール、ベルリン・フィルハーモニー、ミラノ・スカラ座、ウィーン楽友協会、フェスティバル・ホール、コンセルトヘボウ、シドニー・オペラ・ハウス、サントリーホールなど)。

またソリストとして、名だたる交響楽団(東京、ブエノス・アイレス、コペンハーゲン、マドリードなど)や、著名の数々のアンサンブル(イ・ムジチ、イ・ヴィルトゥオージ・ディ・ローマ、オーストラリア室内管弦

楽団、ベルリン室内管弦楽団、ザグレブ・ソロイスツなど)と共演している。またピアノ伴奏でリサイタルも開き、ローマ・ベートーヴェン四重奏団ともコンサートを行っている。その録音は世界中で人気を博しており、数多くの賞にも輝いている。中でも、ヴィヴァルディの「四季」は“ディスク大賞”をうけた伝説の録音である。また、“ドイツ・レコード批評家賞”を三度、エジソン賞を二度、受賞しており、ベートーヴェンのピアノ四重奏曲にはイタリア批評家賞が贈られた。

最近録音したCDには、タルティーニ、ヴィオレッティ、メンデルスゾーン、トゥリーナの作品が収められている。リサイタルではソリストとして、またローマ・ベートーヴェン四重奏団と共に、世界中のあらゆる都市で定期的にコンサートを行っている。2003年6月イタリア国家より“Professore Emerito”の称を贈られる。

# 横浜公演

ヴァイオリン・リサイタル 11/7 [金] 19:00 神奈川県立音楽堂

主催：アーヨの会 / 後援：(社)才能教育研究会

W.A. モーツァルト

ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K.304

アレグロ  
テンポ・ディ・メヌエット

L. ベートーヴェン

ヴァイオリン・ソナタ 第5番 ヘ長調 op.24 「春」

アレグロ  
アダージョ・モルト・エスプレシーヴォ  
スケルツォ, アレグロ・モルト  
ロンド, アレグロ・ノン・トロッポ

J. トゥリーナ

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ニ短調 op.82  
「スペイン・ソナタ」

レント, アレグロ・モルト  
アリア, レント  
ロンド, アレグレット

J. ブラームス

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 op.108

アレグロ  
アダージョ  
ウン・ポコ・プレスト・エ・コン・センチメント  
プレスト・アジタート

ピアノ：東 誠三

東 誠三 (ピアノ)



幼少より才能教育でピアノをはじめ、東京音楽大学へ進む。第52回日本音楽コンクール第一位、その後バリ国立高等音楽院に留学、ブルミエ・フリで卒業。ホツォーリ国際コンクール第一位、ヴィオッティ・ヴァルセミア国際コンクール第一位、アメリカで行われたロベール・カサドシュ国際コンクール第三位。この間、世界各地で演奏会を開いている。日本でも全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演をしている。

# 松本公演

11/13 [木] 19:00 松本市音楽文化ホール

主催：(社)才能教育研究会 / 後援：(社)才能教育研究会甲信地区指導者会

A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲 ト短調 op.12-1

アレグロ  
ラルゴ  
アレグロ

J.S. バッハ

ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲  
ニ短調 BWV1060

アレグロ  
アダージョ  
アレグロ

オーボエ：北原 章

指揮：豊田耕兒

合奏：才能教育研究会甲信地区指導者弦楽団

A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」 op.8-1~4

[春] アレグロ ラルゴ アレグロ  
[夏] アレグロ・ノン・モルト アダージョ プレスト  
[秋] アレグロ アダージョ・モルト アレグロ  
[冬] アレグロ・ノン・モルト ラルゴ アレグロ

指揮：豊田耕兒

合奏：国際スズキメソード音楽院弦楽団

豊田耕兒 (指揮)



幼少より鈴木鎮一先生に師事、その後バリ国立高等音楽院に学ぶ。当音楽院を卒業後、ジョルジュ・エネスコ、アルテュール・グリュミオーに師事。ロン・ティボー、ジュネーヴ、エリザベート女王国際音楽コンクール入賞。ライン室内楽団第一コンサートマスターを3年、ヘルリン放送交響楽団の第一コンサートマスターを17年間、ヘルリン国立芸術大学ヴァイオリン科教授を21年間勤める。その間グリュミオー弦楽四重奏団メンバー、ヘルギー・ヴァロニー夏期国際アカデミーのヴァイオリン講師、草津夏期国際アカデミー及び群馬交響楽団の音楽監督を歴任。現在、才能教育研究会会長。

北原 章 (オーボエ)



石川県小松市出身。1973年武蔵野音楽大学器楽科卒業。同年北西ドイツ音楽アカデミー・デットモルトに入学。オーボエをヘルムート・ヴィンシャーマン氏に学ぶ。1975年ケルン国立音楽大学に移り、ヘルムート・フッケ氏のもとで研鑽をつむ。1976年北西ドイツフィルハーモニー交響楽団に、ソロオーボエ奏者として入団。1982年に帰国し、NHK交響楽団に入団。現在、NHK交響楽団首席オーボエ奏者。

# 富山公演

11/16 [日] 14:00 富山市民プラザアンサンブルホール

主催：(社)才能教育研究会富山、高岡支部 / 後援：(社)才能教育研究会  
支援：(財)富山市民文化事業団支援事業

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.3-6

アレグロ  
ラルゴ  
プレスト

ヴァイオリン協奏曲 ト短調 op.12-1

アレグロ  
ラルゴ  
アレグロ

ヴァイオリンとチェロのための協奏曲  
変ロ長調 Tomo 35°

アレグロ・モデラート  
アンダンテ  
アレグロ・モルト

チェロ：林 峰男

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」 op.8-1~4

[春] アレグロ ラルゴ アレグロ  
[夏] アレグロ・ノン・モルト アダージョ プレスト  
[秋] アレグロ アダージョ・モルト アレグロ  
[冬] アレグロ・ノン・モルト ラルゴ アレグロ

指揮：中川洋司  
合奏：スズキメソード・ジュニアアンサンブル



中川洋司 (指揮)

5才よりススキ・メソッド (才能教育) の指導者であった父、中川文雄にヴァイオリンの手ほどきを受け、現、国際スズキメソッド音楽院に進み鈴木鎮一先生に師事する。現在ススキ・メソッドの指導者として富山支部・高岡支部で後進の指導にあたり共に、独奏及び室内楽等の演奏活動も行い、富山シティフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター・弦楽トレーナーとしてアマチュアの指導も行っている。又、富山県内の弦楽指導者との交流もはかり「ジュニアオーケストラ」の指揮及び指導育成にもあたっている。



林 峰男 (チェロ)

幼少より才能教育にてチェロを習い、故斎藤秀雄先生に師事、その後ジュネーブ音楽院を第一位で卒業する。その後ヘオグラード国際チェロ・コンクール第一位、カザルス生誕百年記念コンサートで演奏する。1976年以降、名門スイス・ロマン管弦楽団との共演をはじめ、世界各地で演奏会を開いている。日本でも毎年定期的に全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演もしている。また東京ストリングス・トリオを結成し、1993年にはニューヨーク・カーネギーホールでデビュー公演を行った。

# 名古屋公演

11/18 [火] 18:30 しらかわホール

主催：アーヨの会 / 共催：(社)才能教育研究会東海地区指導者会  
後援：(社)才能教育研究会

## G.F. ヘンデル

ヴァイオリン・ソナタ 第4番 ニ長調 op.1-13

アッフェットウオーソ  
アレグロ  
ラルゲット  
アレグロ

## J. ブラームス

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 op.108

アレグロ  
アダージョ  
ウン・ポコ・プレスト・エ・コン・センチメント  
プレスト・アジタート

ピアノ：東 誠三

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」 op.8-1~4

[春] アレグロ ラルゴ アレグロ  
[夏] アレグロ・ノン・モルト アダージョ プレスト  
[秋] アレグロ アダージョ・モルト アレグロ  
[冬] アレグロ・ノン・モルト ラルゴ アレグロ

合奏：スズキメソード東海地区弦楽団

## 東 誠三 (ピアノ)

プロフィール 横浜公演参照

## スズキメソード東海地区弦楽団

スズキメソード東海地区弦楽団は、今回のフェリックス・アーヨとの協演のために編成されたアンサンブルである。

# 京都公演

11/23 [日] 19:00 京都コンサートホール(大ホール)

コンチェルティエーノ・ディ・キョウト 45周年記念演奏会

主催：(社)才能教育研究会京都支部 / 後援：(社)才能教育研究会

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲ト短調 op.12-1

アレグロ  
ラルゴ  
アレグロ

指揮：新井 覚

## P. チャイコフスキー

弦楽セレナーデ ハ長調 op.48

アンダンテ・ノン・トロツポ～アレグロ・モデラート  
ワルツ、モデラート  
エレジー、ラルゲット・エレジアーク  
フィナーレ、アンダンテ～アレグロ・コン・スピリート

指揮：江村孝哉

コンサートマスター：フェリックス・アーヨ

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」op.8-1～4

[春] アレグロ ラルゴ アレグロ  
[夏] アレグロ・ノン・モルト アダージョ プレスト  
[秋] アレグロ アダージョ・モルト アレグロ  
[冬] アレグロ・ノン・モルト ラルゴ アレグロ

指揮：新井 覚

合奏：コンチェルティエーノ・ディ・キョウト

# 東京公演

11/30 [日] 14:00 東京国際フォーラムホールC

主催：アーヨの会 / 後援：(社)才能教育研究会、関東地区指導者会

マネージメント：ムジークレーベン

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲ト短調 op.12-1

アレグロ  
ラルゴ  
アレグロ

## W.A. モーツァルト

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲  
変ホ長調 K.364

アレグロ・マエストーン  
アンダンテ  
プレスト

ヴィオラ：安藤裕子

## A. ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」op.8-1～4

[春] アレグロ ラルゴ アレグロ  
[夏] アレグロ・ノン・モルト アダージョ プレスト  
[秋] アレグロ アダージョ・モルト アレグロ  
[冬] アレグロ・ノン・モルト ラルゴ アレグロ

指揮：豊田耕兒

合奏：スズキ・ストリングス・トウキョウ



新井 覚 (指揮)

1932年長野県に生まれ、子供の頃よりヴァイオリンを故鈴木鎮一先生に師事。  
1952年より(社)才能教育研究会京都支部にて指導を始め、多数の生徒を育成し今日に至る。  
1958年に生徒の中の上級生による弦楽合奏団を結成、コンチェルティエーノ・ディ・キョウトと命名し、これまでの45年間に幾多の大家と共演してきた。  
フェリックス・アーヨ氏とは1981年に共演して以来、親交を深める。



江村孝哉 (指揮)

バイオリンを才能教育研究会京都支部で、新井覚氏に師事。  
弦楽合奏団コンチェルティエーノ・ディ・キョウトに入団、最初バイオリン、後にピオラ奏者となる。この間ヴィオラ、室内楽でウィリアム・プリムローズにレッスンを受ける。  
現在、才能教育研究会京都支部バイオリン科指導者、コンチェルティエーノ・ディ・キョウト、ピオラ首席、指揮者、コンチェルティエーノ・ディ・キョウト・ジュニア指揮者、ラミー弦楽四重奏団ピオラ奏者、一音寺室内合奏団ピオラ首席、トレーナーを務める。

豊田耕兒 (指揮)

プロフィール 松本公演参照

## スズキ・ストリングス・トウキョウ

スズキ・ストリングス・トウキョウは、今回のフェリックス・アーヨとの協演のために特別編成されたアンサンブルである。



安藤裕子 (ヴィオラ)

5才よりススキメソードでヴァイオリンをはじめ、大沢美木、深沢園子の各氏に師事。東京芸術大学修士課程修了。第3回日本室内楽コンクール第1位。第17回ウィットリオ・グイ国際室内楽コンクール、デュオ部門最高位。第52回ジュネーブ国際コンクール、セミファイナリスト。94年安宅賞、97年大垣音楽祭最優秀新人賞受賞。これまでに、新日本フィル、東京フィルと共演したほか、木曾福島、宮崎等各地の音楽祭に参加。また、98年春のソロリサイタルは音楽の友誌上で、「今楽期出色のコンサート」と評された。  
紀尾井シンフォニエッタ東京、ジャパンチェンバーオーケストラ、札幌北ラホールカルテット、ピアノカルテット、「opus 1」のメンバー、東京シティフィル首席奏者として活動中。ヴィオラを菅沼準二氏に師事。

## 曲目について

### ヴィヴァルディ

協奏曲集「四季」op.8の1〜4

イタリア・バロック音楽最大の巨匠として知られるヴィヴァルディ（1678-1741）は、その生涯に約650曲にもおよぶ作品を書いています。そのうちの456曲は各種の独奏楽器による協奏曲で、弦楽器のための協奏曲は330曲を数えます。これらの作品の大半が、ヴィヴァルディがヴァイオリンの指導と指揮にあっていたヴェネツィアのピエタ女子養育院の合奏団や合唱団のために書かれたとされています。ヴィヴァルディの全作品のなかでもっとも人気のあるのが、1720年頃にマントヴァで書かれたと推察される協奏曲集「四季」です。ヴィヴァルディが50歳の頃にアムステルダムのル・セース社から出版され、マルツィン伯ウエンツェスラウに献呈されています。「四季」は、「和声と創意への試み」というタイトルを付された全12曲からなる協奏曲集作品8のなかの第1番から第4番にあたりますが、これが「四季」と呼ばれるのは、緩一急一緩の3つの楽章からなる4つの曲に、それぞれ「春」「夏」「秋」「冬」というタイトルが付けられ、田園的な性格をもつ各曲の楽譜に、四季折々の自然と情景をうたいこんだ作者不詳（ヴィヴァルディの自作ともいわれています）の14行の短いソネットが添えられているからです。それらを描写的に描きだした「四季」は、従来の合奏協奏曲のカテゴリーを越えて、ヴァイオリン協奏曲の発展に影響を与え、のちのロマン派の作曲家たちが手がけた標題音楽の先駆けとなった作品ともいわれています。

■協奏曲第1番 ホ長調 RV269「春」

第1楽章 アレグロ

＜春がきた…＞というソネットのとおり、新しい春の訪れへの喜びが描かれています。

第2楽章 ラルゴ

＜花咲きかおる草原に…牧人はまどろむ＞とあり、ものうい気分がただよいます。

第3楽章 アレグロ 「田園舞曲」

妖精や牧人たちが明るい陽光のなかで陽気な調べにあわせて踊る場面にはじまり、生き生きとした春の喜びが描かれています。

■協奏曲 第2番 ト短調 RV315「夏」

第1楽章 アレグロ・ノン・モルト

夏のけだるさや、変化に富む夏の気候を描出。

第2楽章 アダージョ

激しい稲妻と雷、虻や蚊の大群に不安をおぼえ、人々の身体は休まる暇也没有せん。

第3楽章 プレスト

夏の嵐の情景が劇的に描き出されています。

■協奏曲 第3番 へ長調 RV293「秋」

第1楽章 アレグロ

豊作を祝う村人たちの歌と踊り、酔いつぶれて甘い眠りに誘いこまれる様子が描かれます。

第2楽章 アダージョ・モルト

美酒に酔い、心地よさそうに村人たちが眠る、そんな平和な世界を表現しています。

第3楽章 アレグロ

村人たちの狩猟の情景が描写されています。

■協奏曲 第4番 へ短調 RV297「冬」

第1楽章 アレグロ・ノン・モルト

厳寒の屋外の様子が描かれています。

第2楽章 ラルゴ

炉辺の暖かさと思い、そして、冬の恵みの雨が描かれます。

第3楽章 アレグロ

再び戸外の情景が描写されますが、冬には冬の楽しさがあり、やがて春が近いことを感じさせて、全曲を閉じます。

### ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲 第6番 イ短調

RV356 op.3の6

ヴィヴァルディの協奏曲集「四季」とともに、イタリア・バロック音楽を代表する名曲として人気を集めているのが、ヴィヴァルディの「調和の靈感」作品3です。（「調和の幻想」とも訳されます）この曲集には、多様な様式による12曲の協奏曲が含まれています。古い手法による協奏曲第7番などは1700年以前に書かれた可能性があるとされていますが、大半は1703年以降に、ピエタ女子養育院の合奏団のために書かれたものと思われます。協奏曲第6番 イ短調RV356 は、独奏ヴァイオリンのための協奏曲です。簡潔ながら密度の高い作品で、ヴィヴァルディの豊かな表現力がうかがえます。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 ラルゴ

第3楽章 プレスト

### ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調

RV317 op.12の1

協奏曲集作品12は、ヴィヴァルディが出版させた最後の作品で、円熟期に書かれた最後の協奏曲集にあたります。全6曲からなりますが、第3番の合奏曲以外はすべて独奏ヴァイオリンのための協奏曲で、3つの楽章からなります。協奏曲第1番は開放感にあふれており、第2楽章の優美な旋律が印象的です。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 ラルゴ

第3楽章 アレグロ

### ヴィヴァルディ

ヴァイオリンとチェロのための協奏曲

変ロ長調 T35

ヴィヴァルディはほんとうに多彩で多様な音楽を書き残していますが、独奏楽器のためだけでなく、2つのヴァイオリン、2つのチェロ、2つのオーボエ、あるいはここでとりあげられている協奏曲のように、ヴァイオリンとチェロのための複協奏曲なども多数残しています。いずれもピエタの女子養育院の女子合奏団のために書かれたものと思われます。

第1楽章 アレグロ（・モデラート）

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 アレグロ・アッサイ

### J.S.バッハ

ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲

二短調 BWV1060

J.S.バッハ（1685-1750）は、1730年頃から、コレギウム・ムジクムというアマチュアの合奏団の指揮者を務め、彼らのために多くの協奏曲を作っています。ところが、それらはいずれもそれ以前に書かれた協奏曲からの編曲であることがわかりました。「2台のチェンバロのための協奏曲BWV1060」もそのひとつですが、これは以前には、2つのヴァイオリンのための協奏曲が原曲と考えられていました。しかしその後の研究で、原曲はヴァイオリンとオーボエのために書かれたとする考えかたが大多数の支持を得て、昨今はこの編成で演奏されることが多くなりました。バッハはチェンバロ用に編曲する際、楽器の音域の違いから、音

域を下げるが多かったため、原曲を復元演奏するときには高くするのが一般的で、ハ短調がニ短調で復元されていたわけですが、近年はハ短調で演奏されることも多いようです。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アダージョ

第3楽章 アレグロ

### モーツァルト

ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲

変ホ長調 K364

モーツァルト（1756-1791）は、「協奏交響曲」を2曲残したことになっています。2つの弦楽器を独奏楽器として1779年に書かれた「K364」と、「オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのための協奏交響曲K297b」がそれぞれです。この管楽器を独奏楽器とする曲のことは、モーツァルトが1778年4月に父レオポルトへ送った手紙のなかに書かれていますが、スコアもパート譜も残っておらず、後年に発見された筆写譜は、モーツァルトが意図した楽器と違っていたため、モーツァルトの作かどうかかわからないまま、演奏されています。モーツァルトが「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」を書いたのは、1777年から翌年にかけてのドイツ、マンハイム旅行が大きな刺激になってのことと思われます。その地でさまざまな楽曲形態に触れたモーツァルトは、協奏曲と交響曲を合体させたような協奏交響曲の作曲を試みたのでしょう。ヴァイオリンとヴィオラが美しくからみあう晴れやかな曲です。

第1楽章 アレグロ・マエストーソ

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 プレスト

### チャイコフスキー

弦楽セレナーデ 八長調 op.48

1880年の9月から10月にかけて作曲され、翌年ベテルブルクのロシア音楽協会で初演されたこの曲は、チャイコフスキー（1840-1893）の代表名曲のひとつです。大規模な編成による弦楽オーケストラのために書かれた4楽章からなる作品で、親しみやすい旋律と豊かな色彩感、そしてチャイコフスキーならではの詩情とロシア的情感にあふれた傑作です。チャイコフスキー自身、この曲について、「モーツァルトに対する尊敬と彼の様式への意識的な模倣を試みた」と語っています。

第1楽章 ソナティネ形式の小品：

アンダンテ・ノン・トロッポーアレグロ・モデラート

第2楽章 ワルツ：モデラート

第3楽章 エレジー：ラルゲット・エレジャーコ

第4楽章 ロシアの主題による終曲：

アンダンテーアレグロ・コン・スピリート

### ヘンデル

ヴァイオリン・ソナタ 第4番 二長調

HWV371 op.1の13

バロック音楽最大の作曲家のひとり、ヘンデル（1685-1759）晩年の1750年頃に作曲された作品。充実した内容をもっており、ヘンデルのヴァイオリン・ソナタではもっとも有名なものです。大英図書館に所蔵されている自筆譜には、「ヴァイオリン・ソロとチェンバロのためのソナタ」と記されています。

第1楽章 アッフエットウオーソ

第2楽章 アレグロ

第3楽章 ラルゲット

第4楽章 アレグロ

### モーツァルト

ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K304

1778年、パリとマンハイムで書かれたヴァイオリン・ソナタで、このジャンル唯一の短調の作品です。かつては第28番とよばれていました。1781年11月にウィーンで出版された「ヴァイオリンの伴奏をもつクラヴサン、またはピアノのための6つのソナタ」の第4曲です。モーツァルト（1756-1791）自身、これらのソナタについて、「ヴァオリンの助奏をもつソナタ」と語っているように、主役はピアノで、ヴァイオリンは脇役でしかありませんが、ドラマティックな激しさと深い情感にみちたこの「K304」を聴いていると、そうした主従の関係はさておき、ふたつの楽器が親密な対話を繰り返しています。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 テンポ・ディ・メヌエット

### ベートーヴェン

ヴァイオリン・ソナタ 第5番 へ長調 op.24「春」

ベートーヴェン（1770-1827）は、ヴァイオリン・ソナタを全10曲残しています。最後の1曲を除いて9曲までが、若い時代に書かれています。第5番は個性的な意欲がうかがえる作品で、形の上では、従来の3楽章形式を初めて4楽章にし、第3楽章にスケルツォを入れています。1801年に書かれ、モーリッツ・フォン・フリース伯爵に献呈。「春」あるいは「スプリング」の愛称でよばれますが、これはベートーヴェン自身が付けたものではありません。この曲に流れる明るさ、新鮮さ、和やかさ、幸福感といったようなものが、春到来の喜びを感じさせるところから、この愛称で広く親しまれるようになったものです。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アダージョ・モルト・エスプレッシーヴォ

第3楽章 スケルツォ、アレグロ・モルト

第4楽章 ロンド、アレグロ・マ・ノン・トロッポ

### トゥリーナ

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 op.82

「スペイン・ソナタ」

トゥリーナ（1882-1949）は、マドリード音楽院でピアノを学んだのち、パリへ出てスコラ・カントルムでダンディに師事した作曲家です。ファリャと並ぶ近代スペイン国民楽派のひとりです。スペインの民族色の強い、伝統的な作曲技法の上にたち、洗練された優雅さやユーモアをたたえた作品を残しています。ここでとりあげられているのは、「スペイン・ソナタ」というタイトルをもつヴァイオリン・ソナタ第2番で、1934年に作曲されたものです。

### ブラームス

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 op.108

ブラームス（1833-1897）が残したヴァイオリン・ソナタは3曲ですが、いずれも充実した内容と高い完成度を誇る傑作です。これ以前に、4曲のヴァイオリン・ソナタを書いたようですが、友人たちの忠告により、廃棄した模様です。この第3番は、1888年に完成され、指揮者でピアニストのハンス・フォン・ビューローに捧げられています。円熟した書法のなかに、晩年の心境の変化が写しだされており、暗く内向的な情熱やくすんだ色彩、そしてあふれる諦観が容易に感じ取れます。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アダージョ

第3楽章 ウン・ボーコ・プレスト・エ・コン・センチメント

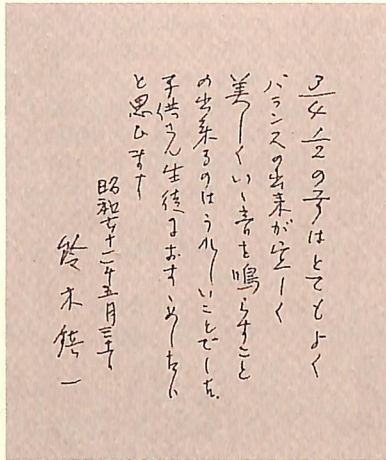
第4楽章 プレスト・アジタート

横堀朱美

# 理想の音にこだわる 名弓「アルシエ」

名弓といわれるフレンチボーの伝統を礎に受け継ぎ、  
最高級のフェルナンブーコ材を吟味、選択。  
すべてが手づくりです。

※弓のあれこれ「ミニ百科読本」を無料でさしあげます。  
ご希望の方は、文京楽器企画部までお問合せください。

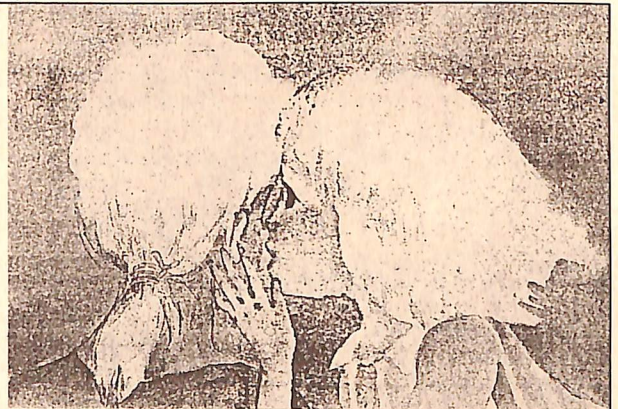


鈴木鎮一先生のメッセージ

製造元  
**株式会社アルシエ**

発売元  
**株式会社文京楽器**  
〒112-0002 東京都文京区小石川2-1-11 TEL.03-3811-2084

バイオリン  
ビオラ  
チェロ  
弦楽器専門店



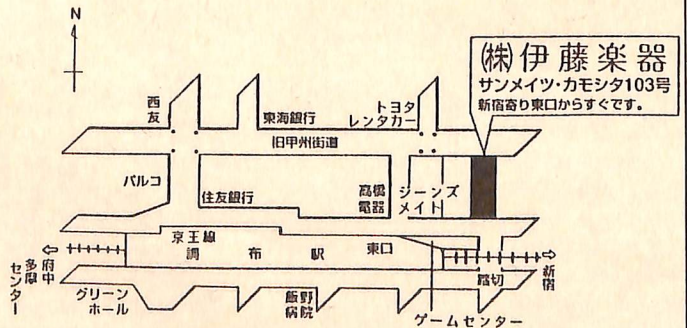
株式会社

## 伊藤楽器

TEL.0424(86)4933

FAX.0424(86)4944

〒182 東京都 調布市 布田 1-48-2  
サンメイツ・カモシタ 103号



コンチェルティーノ・ディ・キョウト45周年記念オーケストラ

指揮／新井 覚・江村 孝哉

ヴァイオリン独奏・客演コンサートマスター／フェリックス・アーヨ

第1バイオリン	第2バイオリン	ヴィオラ	チェロ	コントラバス
田中 信介*	畑 亜季*	仲佐 悦子*	森田 健二*	吉田 秀*
山本 佳奈*	田中 敬子*	松村裕美子*	壁瀬 宥雅*	江刺 豊*
磯貝 碧里*	井狩 苑子*	江村美由紀*	渡邊真理子*	吉平 大作
中村 克敏	上田 彩希*	佐々木めぐみ*	加藤 文枝*	石井絵実子
奈倉 民子	榎原亜紀子	老川 幸夫*	田村 忠司	
ニヴオン慧里紗*	井上 史	田原 明子	馬江 祐介	チェンバロ
松川 堯彦*	大八木文人*	佐々木弘明*	杉山 実	永田 悦子*
黒田 裕理*	山本 怜奈*	田中 春美	森 由季野	
上田 真希	大下美知代*	前川 信幸	結城 貴弘	
馬江 尚子*	結城三紀子	上田 英行	里上 直衛	
木田 淳子	桜井愛由美*	森住 憲一		
妹尾 俊吾*	磯辺 陽*	(江村 孝哉)*		
長谷川英司*	湯川 敬子			
中島 有紀	小谷 明正			
渡邊乃梨子*	渡邊裕美子*			
	笠木 愛			
	村上佐知子*			
	村澤由紀子			

\*印は四季演奏メンバー

### コンチェルティーノ・ディ・キョウト演奏歴 ###

1958年11月23日	京都支部秋季演奏会出演	指揮・井手章夫	(家政学園講堂)
1959年 8月 1日	土曜コンサート	ジュニアオーケストラの夕出演	指揮・井手章夫 (円山音楽堂)
1959年11月20日	第1回演奏会	指揮・井手章夫	(祇園会館)
1960年 4月10日	才能教育関西地区合同演奏会出演		(相愛学園講堂)
1960年11月19日	第2回演奏会	指揮・井手章夫	(京都会館第2ホール)
1961年11月18日	第3回演奏会	指揮・井手章夫	(京都会館第2ホール)
1962年 6月10日	京都支部春期発表演奏会出演	指揮・井手章夫	(華頂会館)
1962年11月 7日	第4回演奏会	指揮・井手章夫	(京都会館第2ホール)
1963年 8月 3日	松本夏期学校コンサート出演	指揮・井手章夫	(松本・本郷体育館)
1963年11月23日	第5回演奏会	チェロ独奏・斉田 出／指揮・井手章夫	(大谷ホール)
1965年 1月 7日	第6回演奏会	フルート独奏・吉田雅夫／指揮・井手章夫	(京都会館第2ホール)
1965年 5月13日	松本音楽院合奏団とのジョイントコンサート	指揮・井手章夫	(大谷ホール)
1966年 1月 7日	第7回演奏会	指揮・井手章夫	(京都会館第2ホール)
1966年11月23日	第8回演奏会	オーボエ独奏・丸山盛三／指揮・井手章夫	(勤労会館)
1967年11月 8日	第9回演奏会	ヴィオラ独奏・河野昌彦／指揮・井手章夫	(大谷ホール)
1968年 8月 5日	松本夏期学校コンサート出演	指揮・井手章夫	(松本市民会館)
1968年12月 1日	第10回演奏会	オーボエ独奏・丸山盛三／指揮・井手章夫	(大谷ホール)
1969年 4月 6日	聖イエス会賛美大会出演	指揮・井手章夫	(聖イエス会嵯峨野教会)
1969年 8月 1日	松本夏期学校コンサート出演	指揮・井手章夫	(松本市民会館)
1969年12月24日	クリスマスコンサート	指揮・井手章夫	(ピアトル教会)
1970年 1月11日	第11回演奏会	指揮・井手章夫	(大谷ホール)



1970年 1月18日	特別演奏会	指揮・井手章夫	(松本・才能教育会館ホール)	1990年10月13日	第32回演奏会	指揮・新井 覚	(京都府立文化芸術会館)
1970年 8月 1日	松本夏期学校コンサート出演	指揮・井手章夫	(松本市民会館)	1991年 4月29日	平成2年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉、松村裕美子	(長岡京記念文化ホール)
1970年12月29日	第12回演奏会	ピアノ独奏・辛島輝治/指揮・井手章夫	(大谷ホール)	1991年11月 4日	第33回演奏会	指揮・新井 覚	(京都府立文化芸術会館)
1971年 7月 3日	京都支部創立20周年記念 講演会と演奏会出演		(京都会館第1ホール)	1991年11月14日	'91京都愛護 クラシックコンサートの集い	指揮・新井 覚	(京都市社会教育総合センター大ホール)
1971年11月14日	第13回演奏会	指揮・井手章夫	(大谷ホール)	1992年 5月 5日	平成3年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・新井 覚	(長岡京記念文化ホール)
1972年11月19日	第14回演奏会	フルート独奏・高橋利夫/指揮・井手章夫	(大谷ホール)	1992年11月 7日	第34回演奏会	指揮・新井 覚	(東部文化会館)
1973年 5月24日	全国指導者研究大会コンサート出演	指揮・新井 覚	(シルクホール)	1993年 4月11日	平成4年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・新井 覚	(長岡京記念文化ホール)
1973年11月18日	第15回演奏会	フルート独奏・ルイ・モイーズ/フルートと指揮・高橋利夫	(大谷ホール)	1993年10月10日	創立35周年記念OBオーケストラ演奏会	指揮・井手章夫	(京都府立文化芸術会館)
1975年 2月 2日	第16回演奏会	ピアノ独奏・辛島輝治/指揮・高橋利夫	(大谷ホール)	1993年11月20日	第35回演奏会	指揮・井手章夫	(京都西文化会館ウエスティー)
1975年11月 9日	第17回演奏会	フルートと指揮・高橋利夫	(大谷ホール)	1994年 4月10日	平成5年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(長岡京記念文化ホール)
1976年10月10日	特別演奏会	フルート独奏・高橋利夫/指揮・井手章夫	(松本・才能教育会館ホール)	1994年 4月17日	特別演奏会	ヴァイオリン独奏・フェリックス・アーヨ/指揮・新井 覚	(京都会館第2ホール)
1976年11月20日	第18回演奏会	フルート独奏・高橋利夫/指揮・井手章夫	(大谷ホール)	1994年10月23日	第36回演奏会	ピアノ独奏・田中修二/指揮・新井 覚	(京都こども文化会館)
1977年11月27日	第19回演奏会	指揮・井手章夫	(シルクホール)	1995年 4月 9日	平成6年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・新井 覚、江村孝哉	(長岡京記念文化ホール)
1978年 6月25日	特別演奏会	チェロ独奏・林 峰男/指揮・堤 俊作	(シルクホール)	1996年 1月13日	第37回演奏会	指揮・新井 覚	(京都コンサートホール小ホール)
1978年 7月30日	特別演奏会	チェロ独奏・林 峰男/指揮・堤 俊作	(松本市民会館)	1996年 4月28日	平成7年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・新井 覚、江村孝哉	(京都こども文化会館)
1978年11月12日	第20回演奏会	指揮・堤 俊作	(大谷ホール)	1996年12月22日	第38回演奏会	ヴァイオリン独奏・小林武史/指揮・新井 覚	(京都府立文化芸術会館)
1979年 5月20日	特別演奏会	チェロ独奏・林 峰男/指揮・堤 俊作	(東京・石橋メモリアルホール)	1997年 4月12日	平成9年度京都支部卒業演奏会出演		(京都府立文化芸術会館)
1979年12月22日	第21回演奏会	ファゴット独奏・中西祥之/指揮・堤 俊作	(大谷ホール)	1997年11月23日	第39回演奏会	指揮・新井 覚	(東部文化会館)
1980年 5月26日	特別演奏会	チェロと指揮・モーリス・ジャンドロン	(大谷ホール)	1998年 5月16日	平成9年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都こども文化会館)
1980年 9月22日	第22回演奏会	フルート独奏・山田恵美子/指揮・堤 俊作	(西陣ホール)	1998年10月 3日	第40回演奏会	ヴィオラ独奏・篠崎友美/指揮 新井 覚	(京都府立文化芸術会館)
1981年10月15日	第23回演奏会	ヴァイオリン独奏・フェリックス・アーヨ/チェロ独奏・林 峰男 指揮・古谷誠一	(大谷ホール)	1999年 4月18日	平成10年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都市東部文化会館)
1982年10月23日	第24回演奏会	フルート独奏・高橋利夫/チェンバロ独奏・古川五巳 /コントラバス独奏・今村れい子/指揮・堤 俊作	(京都こども文化会館)	1999年11月21日	第41回演奏会	指揮 新井 覚	(京都市東部文化会館)
1984年 2月 5日	第25回演奏会	ピアノ独奏・松山玲奈/指揮・古谷誠一	(京都こども文化会館)	2000年 4月 8日	平成11年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都市東部文化会館)
1984年11月 3日	第26回演奏会	指揮・磯部省吾	(西陣ホール)	2000年11月19日	第42回演奏会	指揮 新井 覚	(京都市東部文化会館)
1985年11月16日	第27回演奏会	チェンバロ独奏・永山ゆり/指揮・新井 覚	(京都こども文化会館)	2001年 4月 8日	平成12年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都市北文化会館)
1986年11月15日	第28回演奏会	チェロ独奏・林 峰男/指揮・新井 覚 (茨木室内合奏団とのジョイントコンサート)	(吹田メイシアター中ホール)	2001年11月24日	第43回演奏会	指揮 新井 覚	(京都市東部文化会館)
1986年11月22日	第28回演奏会	チェロ独奏・林 峰男/指揮・新井 覚 (茨木室内合奏団とのジョイントコンサート)	(京都アバンティールホール)	2002年 4月14日	平成13年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都市右京ふれあい会館)
1987年 3月26日	スズキメソードピアノ科卒業式出演	指揮・新井 覚	(大坂厚生年金会館大ホール)	2002年11月24日	第44回演奏会	オーボエ独奏・市原 満/指揮 新井 覚	(京都市東部文化会館)
1987年10月28日	第29回演奏会	コントラバス独奏・串田遼造 指揮・新井 覚	(シルクホール)	2003年 4月 5日	平成14年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・江村孝哉	(京都市北文化会館)
1988年10月 9日	創立30周年記念OBオーケストラ演奏会	指揮・井手章夫	(パロックザール)	2003年11月23日	第45回記念演奏会	ヴァイオリン独奏・フェリックス・アーヨ 指揮 新井 覚、江村孝哉	(京都コンサートホール・大ホール)
1988年11月19日	第30回演奏会	ピアノ独奏・田中修二/フルート独奏・金 昌国 /指揮・新井 覚、井手章夫	(京都アバンティールホール)				
1989年10月10日	第31回演奏会	オーボエ独奏・見取香奈/指揮・新井 覚	(京都府立文化芸術会館)				
1989年12月 3日	国際音楽短期大学設立協力コンサート	オーボエ独奏・見取香奈/指揮・新井 覚	(松本・ハーモニーホール)				
1990年 4月 2日	平成元年度京都支部卒業演奏会出演	指揮・井手章夫	(アバンティールホール)				